宍粟市新病院整備に係る基本構想 今後の機能連携等の検討結果

(1) 地域包括ケアシステムのネットワーク拠点機能

市内の診療所や介護事業者等と連携し、多職種のスタッフが集い、情報共有や人材育成を図るための地域包括ケアシステム交流拠点機能

- 地域包括ケアシステムのネットワーク拠点については、市役所北庁舎及び一宮・波賀・千種保健センターに設置している「地域包括支援センター」をその拠点として、医療と介護・福祉の連携強化に取り組むこととしています。

新病院においては、地域包括ケアシステムの基幹病院として、関係機関からの相談等に対応し、入退院支援と在宅医療の推進に円滑な取り組みができるよう、地域医療連携部門の整備、充実拡充を図ることとします。

(2) 訪問看護等の在宅医療

訪問看護ステーション機能の充実と通院困難な方への訪問リハビリテーション等による在宅医療の推進

- 訪問看護ステーション機能の充実、訪問リハビリテーション等による在宅医療の推進については、当面は、現在の訪問看護ステーション機能の充実により対応します。

病院においては、引き続き訪問診療や往診などの在宅医療に取り組むこととしています。

(3) 健診センター機能

疾病の早期発見や重症化予防のための健診センター機能

- 現在の医療体制では、新病院において一般医療を一層強化していこうとする中で、健診部門の受け入れを増やすことは難しい状況です。

医師の増員等医療体制の充実が図れる見通しが立った場合には、健診部門の拡充について検討したいと考えます。

また、市民の健康を守るため、疾病の早期発見につながる健診体制の充実

は重要と考えており、近隣市町の取り組みを参考に、市内の民間診療所への協力依頼も行っていきたいと考えます。

(4) 精神疾患への対応

児童思春期の精神医療及び障がい児の発達支援への対応及び近隣の精神科病院等との連携強化による様々な病態の精神疾患への対応

- 児童思春期の精神医療及び障がい児の発達支援へのニーズが高まっていることは承知しておりますが、対応できる医師が不足しているため、市においては医師招聘に至っておりません。

新病院においては、精神医療全般については、引き続き姫路北病院と連携して対応していくとともに、児童思春期の精神医療及び障がい児の発達支援を行う専門外来の開設に向け、必要な医師の確保に向けて県内の関係病院に働きかけていきたいと考えています。

(5) 新興感染症の市内流行時の対応

新型コロナウイルス等新興感染症の市内流行時における関係機関との連携による医療提供体制の確立

- 随時の検査体制の確保、一定の病床の確保、感染拡大時への対応を想定した医療体制の構築について、引き続き医師会と連携しながら対応したいと考えます。

(6) その他の機能

病院機能以外で、病院と併設することにより機能を発揮できる施設又は地域振興につながる施設の整備

- 現在の一般的な病院整備面積、基本構想段階で要望のあった広めの駐車場確保、公共交通等の乗り入れによるバス・タクシー待機場整備、患者乗降のためのロータリーの整備などにより他の施設整備のための面積確保は難しいと考えます。